



## 年間第 2 主日 (ヨハネ 2:1-11)

イエスは最初のしるしで喜びを届ける

6年前の説教案を、少し見直して今週の説教に充てたいと思います。今週の福音朗読に選ばれた「カナでの婚礼」の物語は、朗読の最後にあるように、イエスにとっての「最初のしるし」となるものでした。イエスが公の面前で、最初におこなった奇跡です。わたしはこの、「最初の出来事」という点に注目して、一週間の糧を探ってみたいと思います。

イエスにとって、最初に取りかかった事柄というものをいくつか指摘できます。まず、公の宣教活動に入るに当たって、第一声というものがああります。イエスの第一声と思われる言葉は、マルコ福音書によれば、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」(マルコ 1・15) というものです。心を神に向け直すことを、まず求めたと言ってよいでしょう。

では最初の活動はどんなものだったでしょう。それは、「弟子を選ぶ」ということでした。もちろんイエスは、荒野野での四十日の試練を経ていますが(マタイ 4・1-11)、それは最初の活動というよりも、活動に入る前の準備です。

ですから、最初の活動と言えるのは、やはり弟子をお選びになることでした。その意味では、どんな奇跡よりも、信頼できる弟子を選び、育てることが、イエスにとっては何より大切だったのだなあと思えることができます。

もしかしたらそれは、わたしたちの教会活動にも通じるのかも知れません。つまり、華々しいわざを展開するよりも前に、教会に寛大に奉仕してくれる弟子を育てることが、何よりも大事なのかも知れません。

本題の「イエスの最初のしるし」に入りましょう。水をぶどう酒に変える奇跡が婚礼に招かれた人びとに伝えようとしていることは2つあると思います。1つは、ご自分が神であるということ、もう1つは、イエスが最初にもたらしたものは、「喜びを届ける」という奇跡だったということです。

それぞれについて押さえていきましょう。イエスは、水をぶどう酒に変えてくださいました。水は、どんなに手を加えてもぶどう酒になり得ません。ぶどう酒がなくなっても、どうしても調達できなくなった場面で、ぶどう酒を与えることができるのは神だけなのです。この出来事を通して、神がここにおられること、神がともにいてくださる(インマヌエル)ことを、お示しになったのです。

もう1つの点は、イエスはこの「最初のしるし」を通して、「喜びを届ける方」であることを示します。イエスが水をぶどう酒に変えたことで、集まっていた人々の顔は喜びで満たされます。婚礼の世話役の言葉が、そのことを如実に物語っています。

(世話役は花婿を呼んで、言った)「だれでも初めに良いぶどう酒を出し、酔いがまわったところに劣ったものを出すものですが、あなたは

良いぶどう酒を今まで取って置かれました。」（ヨハネ 2・10）

もしかしたら、イエスの奇跡のことを、婚礼の客は気付いてなかったかも知れません。奇跡に気付かなかったとすれば、イエスが神であることに気付くチャンスも失ったのかも知れません。もし、奇跡を目撃しなかったとしても、奇跡の結果は残りました。すなわち、ぶどう酒は婚礼の客すべてが味わい、楽しんだのです。イエスが神であることには気付かなかったかも知れませんが、人々は喜びに満たされたのです。

この出来事から、今週の糧をわたしたちも得ることにしましょう。イエスの最初のしるしのねらいは、1つはご自分がだれであることを示すこと、もう1つはこの奇跡が「喜びを届ける」ものであったということでした。

ここからわたしたちも考えましょう。わたしたちにも、生活の中で2つの点を世に対して示すことができるのではないのでしょうか。その2つとは、自分が何者であることを表明すること、そして喜びを届けることが、わたしたちの「最初のしるし」なのだということです。

もう少し、説明を続けましょう。1つめの自分が何者であるかということですが、わたしたちはイエスの洗礼によって神の家族に加えられた者です。まずはこのことを証しします。神の家族ですから、家族であることを隠すべきではないのです。イエスによって救われた者として、顔を上げる必要があります。

2つめに、生活の中で「喜びを届ける者」となることが必要です。圧力を与えるのではありません。人を悲しませる者であってもいけません。何よりもまず、「喜びを届ける者」であるべきです。こうしてわたしたちは、イエスが婚礼の席で示した証しを受け継いで、現代にあって証しし続けます。

かつてイエスが、ご自分が誰であることを示し、真っ先に喜びを届ける方となったように、わたしたちも同じ姿をたどることで、イエスの働きを今の世に示すことができるのです。イエスは今も生きています。イエスは今も、わたしたちを通して世に働きかけている。そのことを、わたしたちの生きざままで示しましょう。

肉体労働をしている人も、机に向かう仕事をしている人も、誰でもイエスのわざを今に引き継ぐことができます。イエスの存在を人々に感じさせる。その思いで、今週一週間を過ごすことにしましょう。